

## 『召しにふさわしい歩み②』

'22/11/13

聖書箇所：エペソ人への手紙 4 章 28 節（新約 p.378）

ここしばらく、間が空いてしまいましたが、今日からまた、エペソ人への手紙を学んでいきたいと思えます。そのために、ちょっとだけ簡単に復習をいたしますと、エペソ書の 1-3 章までは、神様が私たちクリスチャンに与えてくださる…、あるいは、もう既に与えてくださった祝福について教えてくれました…。そう！それは、**エペソ 1:3 で教えられてあった、『(神が)天にあるすべての霊的祝福をもって私たちを祝福して』**くださった！ということの、具体的な説明なのです。

そうして、エペソ 4 章に入って、聖書のみことばは、こう勧めます、『**召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい！**』（エペソ 4:1）って…。<どいようですが、大事なことなので、何度も言います。私たちが良い行ないをするから、神様が、そのご褒美に、私たちのことを救ってくださるのではありません！神様の一方的な恵みによって救われたから…、神の所有物とされたから、その神様に喜ばれるよう、良い行ないをしていくのです！…少し前、エペソ 4:1 のみことばから学んだように、それこそが、救われた者たちの自然な生き方であり、神様が望んでおられる当然の結果なのです！

### 命題：召しにふさわしい歩みとは、どのようなものでしょうか？

そういった流れの中で、私たちは、このみことばを学んできています。特に、エペソ 4:25 以降のみことばは、「じゃあ、具体的に、私たちは、どのような歩みをすべきなのでしょう？私たちの生き方は、どのように変わるはずでしょう？」ということ、私たちに教えてくれています。…もしも、皆さんが、本当に救われたクリスチャンなら…、自分を救ってくださった神様を愛する者へと変えられているのなら、皆さんは、このみことばに強い関心があるはずです。

今日、私たちは、神様が私や皆さんに願っておられる「召しにふさわしい歩み」について学んでいきます。私が願いますことは…、いえ、天の神様が、私たちに願っておられることは、「私たちが、ここで語られてあるみことばに耳を傾けて、私たちが救ってくださった神様の御力を借りて、神様の喜ばれるように生きていこう！神様のみこころに沿って歩んでいくことで、神様の素晴らしさを現わしていこう！」となっていくことです。どうぞ、今日のみことばであるエペソ 4:28 をご覧ください。そこには、こう記されてあります。

28 盗みをしている者は、もう盗んではいけません。かえって、困っている人に施しをするため、自分の手をもって正しい仕事をし、ほねおって働きなさい。

### Ⅲ・盗みではなく、施しをするために働きなさい！（28 節）

今日は、この 1 節だけを皆さんと一緒に学んで参ります。このみことばが教えてくれていることは、簡単に言うと、こういことです。救われたあなたは、「盗み」ではなく、「施し」をするために働きなさい！って…。今から、そういったことを、もう少し詳しく見ていきましょう。

#### ●ここで言われている「盗み」とは？

まず、最初に、皆さんにお断りしておきたいことは、この文脈は 25 節から続いています。…なので、メッセージのポイントは、前回からの続きで、「3」となっていますので、どうか、ご理解ください…。さて、皆さんは覚えてくださっていると思いますが、実は、このエペソ書は、エペソを始めた…、小アジアの諸教会に対して書かれたものでした…。つまり、この手紙の読者は、基本的にクリスチャンだったのです。

でも、皆さん、おかしいと思われませんか？…と言うのも、神様によって新しい者へと造り変えられたはずなのに、クリスチャンに対して書かれているはずなのに、『盗みをしている者は…』と、現在形で書かれてあるの

です。ちなみに、口語訳聖書や新共同訳聖書では、この部分を過去形で翻訳していますが、実は、それは正しくありません。…と言いますのは、このみことばが最初に記された原語であるギリシア語で、この部分を観察してみますと、明らかに、ここにある「盗む」という単語は、現在形（の能動分詞）で書かれてあるからです。でも、じゃあ一体、これは、どういうことなのでしょう…。

実は、ここ 28 節で書かれてある『盗みをしている者…』という表現は、そんなに強い表現ではありません。…と言いますのも、ここでパウロは盗みをしている者に対して、その罪を悔い改めることやそのことを償うよう教えていませんでしょ？また、もしも、イエス様への信仰告白をしていながら、それで、その裏では、窃盗事件を繰り返しているようなら、それこそ、そんな者は本当に救われていると言い得るのでしょうか？

少し変な言い方も知れませんが、恐らく、ここで言われている『盗みをしている者…』というのは、所謂、職業(?)としての盗み…、つまり、誰かの家に忍び込んだりして、金品を奪うとか…、そういったことではなく、もっと身近で…、「些細な盗みについて」言われているのだと思われます。

例えば、この当時、エペソなどの大きな町などでは、公衆浴場(=今で言う銭湯のようなもの?)が数多くあったそうです。そこでは、当時、入浴している人の着物や持ち物が盗まれる、というようなことが頻繁に起こっていたそうです。まあ、今で言えば、店先で勝手に他人の傘を持っていかとか…、海水浴に行つて、そこで他人のサンダルを履いていくというような…、そういった類のことかも知れません。…しかし、例え、そうであったとしても、みことばははっきりと、それらが『盗み』、つまり、「罪である！」ということを教えてくれているのです。

また…、この手紙の宛て先であったエペソや小アジア周辺には奴隷がたくさん居たと考えられています。ですから、例えば、この手紙のエペソ 6:5-8 でも、奴隷たちに対する教えが書かれていますでしょ。ひよつしたら…、この当時は、そういった奴隷たちからすると、主人のものをくすねたり、主人の目を盗んでサボったりするということは、ごく自然な…、日常茶飯事のように行なわれていたことなのかも知れません…。

実際、聖書のピレモン書に登場しているオネシモは、奴隷でありながら、主人に何らかの迷惑をかけて、しかも、そこから逃亡してしまつたような人物ですよ？…そういったことから、当時は、盗みということが今よりはもっと、罪悪感の少ないような軽い犯罪として、横行していたのかも知れません…。

また、時々お話ししていますように、特に、このエペソの町周辺は、罪に乱れた地域でありました…。ですから、当時のクリスチャンたちからしても、「盗み」ということは、ひよつしたら、日常的な問題であったかも知れません。

でも、問題は私たちであり、神様のみこころです！…私たちは、どうでしょうか？私たちは、今日のみことばが教えてくれているような『盗み』を働いてしまつてはいないでしょうか？⇒例えば…、正直、最近あまりよく分かりませんが、かつて、キリスト教会では、聖書を勉強したりするようなソフトの違法コピーや聖書のビデオなどの違法ダビングなどが横行していた、と聞きます。正直、こう言っている私でさえ、かつては、そういったようなことを大した罪悪感を感じることなく、していました。そういったこと以外でも、会社の備品をくすねたり、営業マンは、平気でさぼったり、なんていうようなことを時々聞きます。…果たして、皆さんはいかがでしょうか？

「これ位、みんな、やっているから…。正しいこと…、神様のためにするのだから…」と、私たちは自分勝手な理由を付けて言うかも知れません…。しかし、神様は何とおっしゃるでしょう？…皆さんも、ご存知のように、真唯一の神様は、完全に聖くて正しい御方です！…果たして、その神様が、正しいことのためなら、少々の悪事は見過ごしてくださる、と皆さんは思われます？正直、私は思いません！

## ● 神がお怒りになった 実例 !

どうぞ、皆さん。できましたら、**Ⅱサムエル記 6章のみことばをご覧ください**。そこに、**こんなエピソード**が載っています。『1 ダビデは再びイスラエルの精鋭三万をことごとく集めた。2 ダビデはユダのバアラから神の箱を運び上ろうとして、自分につくすすべての民とともに出かけた。神の箱は、ケルビムの上に座しておられる万軍の【主】の名で呼ばれている。3 彼らは、神の箱を、新しい車に載せて、丘の上にあるアピナダブの家から運び出した。アピナダブの子、ウザとアフヨが新しい車を御していた。4 丘の上にあるアピナダブの家からそれを神の箱とともに運び出したとき、アフヨは箱の前を歩いていた。5 ダビデとイスラエルの全家(ぜんか)は歌を歌い、立琴、琴、タンバリン、カスタネット、シンバルを鳴らして、【主】の前で、力の限り喜び踊った。6 こうして彼らがナコンの打ち場まで来たとき、**ウザは神の箱に手を伸ばして、それを押さえた。牛がそれをひっくり返しそうになったからである。**7 **すると、【主】の怒りがウザに向かって燃え上がり、神は、その不敬の罪のために、彼をその場で打たれたので、彼は神の箱のかたわらのその場で死んだ。**8 **ダビデの心は激した。ウザによる割りこみに【主】が怒りを発せられたからである。それで、その場所はペレツ・ウザと呼ばれた。今日もそうである。』(Ⅱサムエル記 6:1-8)**

⇒多分、皆さんは、ここの記事をよ〜くご存知だろうと思います。この時、一体、どんなことが起こったのでしょうか?…簡単に言うと、『**神の箱**』(別名では、「**契約の箱**、**あかしの箱**」とも)を運んでいた牛が、道中で、それをひっくり返しそうになったから、それを押さえようとしたウザが…、いや! それを押さえたウザが、神の怒りに触れて、命を失ったということです!

しかし、神様は、それを「**良し**」とはされませんでした。…と言いますのは、①**まず第1に**、この神の箱は、牛などに運ばせるのではなく、**民数記 4章のみことば**によれば、「**ケハテ族**」が運ぶべきでありました。「**ケハテ族**」とは、レビ人たちの一部で、彼らは幕屋に関するすべての奉仕を任されていたのです。②**また**、**民数記 4章のみことば**によれば、神の箱を運ぶ時には、彼らケハテ族さえも神の箱に直接触れることがないように、何重にもカバーで覆った上で、神の箱に付いてある穴に「**かつぎ棒**」を通して、彼らが、神の箱に直接触れることなく運ばなければなりません。…実際、**民数記 4章のみことば**を見ても、『**彼らが聖なるものに“触れて”死ななためである…**』(民数記 4:15)ということが記されてあって、神様は、はっきりと、神の箱は、ケハテ族が人力で運ぶべきことと、どんなことがあっても、決して触れてはならない! ということを、予め、教えておいてくださったのです。…なのに、この当時のイスラエルは、それを守ることなく、神様の教えを軽んじてしまいました。だから、ウザは、神の怒りのために、死んでしまったのです。

でも、皆さん、どう思います?…この当時、**大事な神の箱を運ぶに当たって、それを“牛を使って運ぶ”**なんて決めたのは、ウザの独断だったのでしょうか? それとも、**大勢の者たちが知っていたのでしょうか?**…今読んだみことばには、当時、そこには、『**ダビデとイスラエルの全家(ぜんか)**』が居たとあるので、**大勢の者たちが知るところ**だったのです! …つまり、ウザだけの問題では無かったと、私は考えています。だから、**ダビデもまた、「心**を激した」…、つまり、**心を乱された**のです!

**また、今日は、もう時間の関係もあって、聖書のみことばを読むことはしませんが、例えば、あのアナニヤとサツピラ**です。新約聖書の使徒の働き 5章に、彼らのことが記されています。あの時、アナニヤとサツピラの夫婦は、自分たちの持ち物すべてを売り払って…、恐らく、その大半を、当時の教会に献金をしました。そうでしたしょ! …でも、たった1つだけ、**残念な**ことがありました。彼らは、自分たちの財産を売った時、その一部を、自分たちのために残しておいたのに、「**これが全財産です!**」というような嘘をついてしまったのです。その時の、ペテロの言葉によれば、もしも、彼らが嘘をつかなければ、彼らは、神の怒りに触れて死ぬこともなかったかも知れません。…その時、使徒ペテロは、夫のアナニヤに対して、**こんな**言葉を投げかけています、『**…あなたは人を欺いたのではなく、神を欺いたのだ!**』(使徒 5:4)って…。

良いでしょうか? 皆さん。私たちが今、信じ仕えている御方は、**こんな**神様なのです! …ヤコブ 1:17 のみことばが教えてくれているように、この御方は、決して変わることがありません。果たして、この神様は、私たちが、「**少々のことは目をつぶってくれるだろう…**。正しいことのために、ほんのちょっと、ルールを破ってしまったぐらいだから、神は許してくださるだろう…」と思うかも知れませんが、本当に、**そう**でしょうか! …どうか、皆さん、先週も学んだように、自分の都合や願望で、この聖書のみことばを解釈 & 理解するのではなく…、**神様のみことばを、できるだけ真つぐ…、できるだけ純粋に受け入れてくださいますよう、**お願いします。

## ●『正しい 仕事』とは?

どうぞ、今日のみことばをご覧ください。28節の後半にこうあります、『**…かえって、困っている人に施しをするため、自分の手をもって正しい仕事をし、ほねおって働きなさい。**』…神様はおっしゃいます、「盗みをしなくなっただけでは、不十分ですよ!」って…。

どういことかと言いますと…、今日の28節だけでなく、25節や29節などをご覧くださいと分かるように、これらのみことばでは、かつての古い生き方と、新しい生き方とが“**対比**されている”のです。『**偽り…真実**』、『**盗み…施し**』、『**悪いことば…人の徳を養うのに役立つことば**』というように…。

しかも、**ここ28節には、『かえって…』**という言葉(μᾶλλον)があります。この言葉は、ギリシヤ語の比較級で、「かえって」以外には、「いっそう、ますます、なおさら、むしろ、はるかに、それ以上に」などと訳される言葉です。新改訳 2017 や、多くの日本語訳聖書では、「**むしろ**」と訳されています。つまり…、ある内容とある内容を比べて、「**～ではなくて、むしろ、こうありなさい! こうしなさい!**」ということ、このみことばは教えてくれているのです!

そして、**ここ28節の最後には、こうあります、『…自分の手をもって正しい仕事をし、ほねおって働きなさい。』**って…。これは、もう…、内容的には完全な対比ですよ? まず…、『**自分の手をもって…**』とありますが、盗むような者は、他人の利益を奪うわけです。また、『**正しい仕事をし…**』とありますが、盗む者は、正しくない…、間違った仕事をしているわけじゃないですか! 続いて…、『**ほねおって働きなさい**』とあるように、盗むような者は、ほねおって働くのが嫌で、ズルをするわけじゃないですか! 全く、正反対なのです!

ここには『**正しい仕事をし…**』とありますが、ここで『**正しい**』ということを表わすのに用いられている言葉(ἀγαθός)は、「**立派、善良、価値ある…**」というような意味で、「**真つ正直なことをしなさい! 公明正大でありなさい!** より質の高いことをしていきなさい!」というようなことを教えてくれています。

こういったことを言いますと…、ひょっとしたら、ある方は、「**神様は、信仰が成熟した者すべてに、牧師や宣教師などの…、フルタイムの献身者になりなさい!**」ということ、このみことばは教えているのかなと思われる方がいらつしやるかも知れませんが…、しかし、決して、**そうではありません**。

神様は、**私たちそれぞれに…、最善なる御計画**を御持ちです。それが神様のみこころです。私たちは、自分に与えられた環境の中で、それを感謝しつつ…、神様に喜ばれるように神様に仕えていくことができ、それで良いのです。

だから、**ローマ 12:4-8 のみことばは、こう教えます、『4 一つのからだには多くの器官があつて、すべての器官が同じ働きはしないのと同じように、5 大ぜいいる私たちも、キリストにあつて一つのからだであり、ひとりひとり互いに器官なのです。6 私たちは、与えられた恵みに従つて、異なった賜物を持っているので、もしそれが預言であれば、その信仰に応じて預言しなさい。7 奉仕であれば奉仕し、教える人であれば教えなさい。8 勧めをする人であれば勧め、分け与える人は惜しまずに分け与え、指導する人は熱心に指導し、慈善を行う人は喜んでそれをしなさい。』**



⇒少し前に学んだように、私たちクリスチャンは皆、キリストの体の、どこかしら一部分です。だからこそ、全く同じ働きや同じような賜物が与えられている、というのはおかしいのです！ある人には預言すること…、ある人には奉仕すること…、また、ある人は教えるということ…、また別のある人は勤めること、…といった具合に、皆に与えられている賜物が違うし、それ故に、働きも違って、当然なのです！

確かに、過去、カトリックの教会などは、教会の中でも身分制度を設けて、階級を付けたような経緯があります。しかし、宗教改革を起こしたマルチン・ルターやジョン・カルヴァンなどは、すべての職業は神様が与えてくださったものだと言いました…。その通りです！

牧師だって…、一般の信徒だって…、そういった意味においては同じです。神様がそれぞれ…、最善のみこころを御持ちで…、それぞれ一番、良い場所を備え…、そこに遣わしてくださったのです！ただ…、働く場所が教会か、あるいは、教会以外かの違いだけでも知れません。皆それぞれに、神様から与えられた最適な環境があるわけで、私たちは、そこで精一杯働くことが必要なのです。

…ですから、私たちはまず、自分の仕事に対して、誇りを持つべきかも知れません。それが、例えば、どのような仕事であっても…、です。もちろん、これは、家庭の主婦にあっても言えることです。例えば、テトス 2:3-5 のみことばは、こう教えます、『3 同じように、年をとった婦人たちには、神に仕えている者らしく敬虔にふるまい、悪口(あつこう)を言わず、大酒のとりこにならず、良いことを教える者であるように。4 そうすれば、彼女たちは、若い婦人たちに向かって、夫を愛し、子どもを愛し、5 慎み深く、貞潔(ていけつ)で、家事に励み、優しく、自分の夫に従順であるようにと、さすことができるのです。それは、神のこぼがそしられるようなことのないためです。』

⇒このように、聖書のみことばは、年配の主婦であっても、なすべきことを教えてくれています。それは、若い婦人たちを教え導くことです。夫を愛すること…、子どもを愛し育てていくこと…、家事に励むことは何ら卑しいことではありません。いえ！むしろ、神様の前に尊いことなのです！…そうでしょ！

ただ…、残念ながら、ごく一部の職業はクリスチャンとして、ふさわしくないと言わざるを得ません。例えば、直接、偶像に仕えるような、住職や神主などです。他にも、性的なサービスなどを提供するような職業などは、まず、神様が喜ばれないでしょう…。でも、そういったものを除いて、ほとんどすべての職業は、必要な仕事であり、尊い仕事です。大切なのは、この職業が良いとか悪いとか、考える以前に、今、与えられている状況の中で、どのようにして神様に喜ばれるように生きていくか、ということではないでしょうか？

I コリント 7:17-21 のみことばは、このように教えてくれています。『17 ただ、おのおのが、主からいただいた分に応じ、また神がおのおのをお召しになったときのままの状態であらうとすべきです。私は、すべての教会で、このように指導しています。18 召されたとき割礼を受けていたのなら、その跡をなくしてはいけません。また、召されたとき割礼を受けていなかったのなら、割礼を受けてはいけません。19 割礼は取るに足らぬこと、無割礼も取るに足らぬことです。重要なのは神の命令を守ることです。20 おのおの自分が召されたときの状態にとどまっていなさい。21 奴隷の状態に召されたのなら、それを気にしてはいけません。しかし、もし自由の身になれるなら、むしろ自由になりなさい。』

⇒ここは、結婚に関して、パウロが教えてくれているみことばですが、最後、21 節をご覧くださいと、『奴隷の状態に召されたのなら、それを気にしてはいけません。しかし、もし自由の身になれるなら、むしろ自由になりなさい。』とあることから分かる通り、自分に与えられた状況全般…、つまりは、職業についても教えられています。聖書のみことばは「自分が救われたから」と言って、それを安易に…、あまり性急にやめてしまおう！と警告してくれているのです。クリスチャンになったからと言って…、むやみやたらと、仕事を変える必要はありません…。大事なことは、まず、神様のみことばに耳を傾けて…、自分ができるところの中で、主に従っていくことではないでしょうか？

どうぞ、もう1度、今日のみことばの 28 節をご覧くださいと、『ほねおつて働く…』と訳されている部分がありますが、これは、「疲れ果てる、労苦して働く…」といったような意味の言葉で、まさしく、創世記 3:17-19 で、神様が罪を犯してしまったアダムに対しておっしゃられた…、『17 …あなたが、妻の声に聞き従い、食べてはならないとわたしが命じておいた木から食べたので、土地は、あなたのゆえにのろわれてしまった。あなたは、一生、苦しんで食を得なければならぬ。18 土地は、あなたのために、いばらとあざみを生えさせ、あなたは、野の草を食べなければならぬ。19 あなたは、顔に汗を流して糧を得、ついに、あなたは土に帰る。…』と言われた…、その言葉を思い起こしません？

また、あのイエス様も同じようなことを教えてくださっています。マタイ 6:31-34、『31 そういふわけだから、何を食べるか、何を飲むか、何を着るか、などと言って心配するのはやめなさい。32 こういふものはみな、異邦人が切に求めているものなのです。しかし、あなたがたの天の父は、それがみなあなたがたに必要であることを知っておられます。33 だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。34 だから、あすのための心配は無用です。あすのことはあすがお心配なさい。労苦はその日その日に、十分あります。』

⇒このように、私たち人間は、汗水を流して、働くことを嫌がってはいけません。神様が、私たちに命を与え…、健康を与え、また、なすべき仕事を与えてくださったことに感謝を持って、毎日を生きていくべきなのです…。ね、皆さん？

### ●正しい仕事をする 目的 とは？

最後に私たちが学んでいきたいことは、私たちが仕事をする“目的”です。…確かに、聖書のみことばは、私たちが、精一杯、それこそ額に汗して、働くことを勧め、また命じています。…しかし、それが目標と言うか…、そこで終わってしまっただけではないのです。

だって…、ルカ 12:16-21 で、イエス様は、こんな例えを教えてくださいなさいと、『16 …ある金持ちの畑が豊作であった。17 そこで彼は、心の中でこう言いながら考えた。『どうしよう。作物をたくわえておく場所がない。』18 そして言った。『どうしよう。あの倉を取りこわして、もっと大きいのを建て、穀物や財産はみなそこにしまっておこう。19 そして、自分のたましいにこう言おう。『たましいよ。これから先何年分もいっぱい物がためられる。さあ、安心して、食べて、飲んで、楽しめ。』20 しかし神は彼に言われた。『愚か者。おまえのたましいは、今夜おまえから取り去られる。そうしたら、おまえが用意した物は、いったいだれのものになるのか。』21 自分のためにたくわえても、神の前に富まない者はこのとおりです。』⇒このように、私たちが、精一杯働く目的は、自分たちの財産を築くためではありません…。

今日のみことばの 28 節には、何とありました？⇒『施しをするために…』とありますでしょ！つまり、自分のため“だけ”に働いていたのでは、間違ったことはしていなくても、決して、十分ではありません！今先程の例えのように…、それは、「自分のためだけの人生」です。自分しか見ていないのです！残念ながら、それは、本当に救われた者の生き方…、神様が喜んでくださるような生き方ではありません…。

本当に救われて、神様のものとされたクリスチャンは、自分のため“だけ”に生きようとはしません。そうですよ？自分を喜ばせる以上に、神様を喜ばせようとするのです！…救われる前の、かつての私たちは自分自身を喜ばせようとしていました。…と言いますのは、自分自身がまるで神のような存在であり…、自分の人生も…、自分のいのちも、すべては自分のもので、自分のためにあると考えていたからです。

しかし、真の神様を信じて、イエス様を信じた私たちは、そういった部分も変えられたでしょ！私たちの人生は、もはや、自分のためにだけあるのではないのです！救われた私たちは、自分を喜ばせる以上に、神様を喜ばせようとするのです。…皆さんは、どうでしょう？

<励ましの言葉>

使徒 20:35 のみことばは、イエス様の、このような教えを残してくれています。『このように労苦して弱い者を助けなければならないこと、また、主イエスご自身が、『受けるよりも与えるほうが幸いである』と言われたみことばを思い出すべきことを、私は、万事につけ、あなたがたに示して来たのです。』⇒皆さん、聞いてくださいました？ 私たちの模範であられる、イエス様の教えは、こうです、『受けるよりも与えるほうが幸いである。』って…。このように、私たちの信仰が成長していくと、自分が受けることよりも、他者に何かを与えようとなっていく、というのです。…皆さんは、何かを与えようとしておられます？ …それとも、受けることばかりですか？

皆さんは、自分が何かを与える時と、自分自身が何かを受ける時と、そのどちらに喜びを感じられますか？ …そのどちらに、自分自身の重荷を感じられます？ 願わくは、今日、このメッセージを聞いてくださった皆さんが、自分のためや、自分自身の利得ばかりを追い求めるのではなく…、自分のような者を救ってくださった神様のために…、あるいは、何か困っている人を助け、神様の愛を実践することを、今後の目標として、歩んでいってくださることを願います。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。